



岡山 史料ネット Newsletter Vol. 13 2025. 3

全国史料ネット研究交流集会 in 神戸
2025年1月22日・23日

活動報告 (2024年9月～2025年2月)

1. 資料調査活動

西日本豪雨の際にレスキューした資料の洗浄作業に区切りがついたことから、2024年7月以降ボランティアのみなさんと2023年に寄贈されていたF家文書に含まれていた下張り文書はがしの作業に取り組んでいます。9月から1月にかけて計6回の作業を行い、のべ16名の方に参加いただきました。スケッチを取り、番号を与えながら少しずつ作業を進めた結果、この間に約20層分の文書をはがし取りました。近世の借用証文や倉敷の新田の図面のようなものも含まれていました。完了までもう少しかかりそうです。

2. 県文化財等救済ネットワーク研修会に出講

県文化財課が所管し、県内自治体・博物館・関連団体で組織されている県文化財等救済ネットワークが年1回開催している研修会が11月27日に古代吉備文化財センターで開催され、当会が講師として出講しました。

今回はワークショップとして企画され、当会の松岡が「平成30年7月豪雨災害により被災した史料の救済」として当時の会の取り組み内容をお

話して、水損資料の修復方法をデモンストレーションしました。その後、参加者のみなさんに実際に作業を経験してもらいました。国の文化財防災センターからのオブザーバーも含めて約40名の参加がありました。本号に参加記を寄稿いただきましたのでどうぞご覧ください。

3. 全国史料ネット研究交流集会 in 神戸に参加

2025年1月12・13日に今年度の全国集会在神戸大学統合研究拠点コンベンションホール(神戸市)においてハイブリッド形式で開催されました。1995年の阪神・淡路大震災から30年、2005年の水損史料の対応開始から20年を振り返りながら、これまでの成果やこれからの課題を展望する議論が行われました。

当会もポスター発表を行いました。会場では2日間でのべ200名、オンラインでは約80名の参加がありました。こちらも本号掲載の参加記をご覧ください。

(文責・松岡弘之)

高梁市歴史美術館特別展「高梁市発足20周年記念 備中神楽と西林国橋」の開催にあたって

上村和史（高梁市教育委員会）

岡山史料ネットが西日本豪雨の際にレスキューした土師家文書（倉敷市）の一部が高梁市歴史美術館特別展「備中神楽と西林国橋」で展示されています。当時レスキューに関わり、また現在は高梁市で展示を企画された上村和史さんに寄稿いただきました。（事務局）

高梁市歴史美術館では、特別展「高梁市発足20周年記念 備中神楽と西林国橋」を5月12日まで開催しています。

備中神楽は、昭和31年(1956)に岡山県の重要無形民俗文化財に指定され、その後、地元での機運の高まりを受けて昭和54年(1979)には国の重要無形民俗文化財に指定され、現在も岡山県を代表する郷土芸能として、地域にとって欠かせない存在となっています。

「古事記」や「日本書紀」の神話を取り入れ、演劇性に富んだ神代神楽を創作した人物が西林国橋(1764-1828)ですが、今回の特別展では国橋に関する史料も展示しています。これらは平成30年豪雨で被災し、その後岡山史料ネットがレスキュー・修復した「土師家文書」の一部です。

これら史料の展示が実現に至るまでには、多くの方々の尽力がありました。レスキューは、岡山県教育庁文化財課と共同で実施しましたが、その背景には、岡山史料ネットがボランティアベースの予防ネットとして2005年に設立され豪雨災害の前から活動していたこと、県を中心とした行政ベースのネットワークとして岡山県文化財等救済ネットワークが2014年に設立されていたこと、両者が連携を深めていたことがあります。

また地道な修復作業は、SNS等での呼びかけに応じてくださった多くのボランティアのご参加があつてのことです。作業にご参加いただいた方以外にも、全国のみなさまからの寄付や技術指導

をいただきました。

修復と同時並行で調査も進められました。これまで西林国橋に関する記録はほとんど確認されておらず、国橋がいに神代神楽を作り上げたのかということや、その生涯自体が謎に包まれていました。しかし、調査によってその生涯が徐々に明らかになりつつあります(室山京子編『倉敷市真備土師家文書報告書』岡山大学文明動態学研究所、2024年)。今回の展示はその成果を踏まえたものです。

なお、18世紀後半以降、全国の神職を管轄した京都の吉田家から、祭礼におけるさまざまな衣装の着用を許可する「神道裁許状」を得て地域での地位を高め神職が、仏教や呪術信仰・民間信仰を排除しようとしたことが知られていますが(梅田千尋「近世の神道・陰陽道」『岩波講座日本歴史』近世3、2014年)、今回の展示開催に向けた調査では、西林国橋による神代神楽の創出もこのような流れの中に位置付けることができることがわかりました。

被災によって腐敗が進み状態の悪かった史料が、さまざまな立場の人々が携わってレスキュー・修復・調査がなされたことにより、新たな価値が与えられ、地域の民俗芸能の歴史の一端が明らかになりました。今回の展示は、歴史資料の保存と継承に関するネットワークが着実に広がり、深まっていることを示すものでもあります。ぜひ会場にお越しいただき、ご覧ください。

■特別展「備中神楽と西林国橋」

会場：高梁市歴史美術館（高梁市原田北町1203番地1）

会期：2025年2月1日（土）～5月12日（月）

毎週火曜休館

開館時間：9時から17時

入館料：一般500円、65歳以上・高校・大学生300円、中学生以下無料

問い合わせ先：電話0866-21-0180

岡山県文化財等救済ネットワーク研修会 参加記

中村暁子（和気町歴史民俗資料館）

11月27日、岡山県古代吉備文化財センターで開催された研修会に参加し、平成30年7月豪雨災害で被災した史料救済の手順や作業内容、その後のお話を聞くとともに作業の一部を体験しました。

作業体験では、問題がないとはいえ紙史料を洗浄水にドボンと浸けるというのはかなり抵抗があり、私を含む参加者の「いいのか？いいんだよな…」という心の声が聞こえてくるような空気と新しい経験に対する関心で、終始ドキドキしていました。今回は綺麗な資料を用いた研修でしたが、本来は汚泥等で固着し、より脆弱な状態の史料を取り扱うことを想像すると、かなりの集中力と慎重さが求められる作業であることを知ることができた貴重な機会でした。

中でも一番印象的だったのは、被災史料を間近に見た瞬間です。「是非、袋を開けてみてください」という声掛けとともに出てきたのは、ジップロックに入った未処理の被災史料。私の元に回ってきたのは扇子だったでしょうか。袋の口に鼻を近づけると、むわっと広がる泥のようなカビのような草のような、表現するには難しい臭い。私自身、西日本豪雨をはじめとする災害現場に足を踏み入れた経験はないのですが、この臭いと体験前のスライドで見た現場写真が重なり、「これが現実か」と胸がギュッとなるのを感じました。

「泥の天使たち」。1966年にイタリアで大洪水が起きた際、文化財の救助活動のために世界中から集結したボランティアが後にこう呼ばれ、この活動は世界各地の文化財レスキューに大きく貢献したと言われています。今回の講習の間、ずっと頭の片隅に浮かんでいたのがこの出来事でした。

人命第一ではあるけれど、その“人”を取り巻く歴史や文化も「なくなってしまった」ものにならないため、私たちが今からできることは何なのかを考えるきっかけをくれた研修会となりました。

第10回 全国史料ネット研究交流集会 in 神戸 参加記

横田明日香（岡山大学大学院）

私は、1月12日(日)・13日(月)に行われた「第11回全国史料ネット研究交流集会 in 神戸」に参加した。史料ネット研究交流集会への参加は初めてだったが、ポスターセッションを担当した。セッションを聞く中で、たくさんの人が被災資料の保全活動に携わっていることや、地域や世代を超えて連携していることを始めて知った。

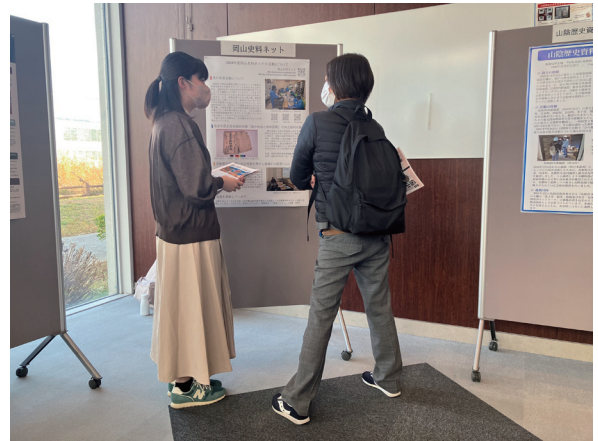
今年は、阪神・淡路大震災から30年という節目の年を迎えた。私は、この震災を経験していないが、当時のニュース映像や個人が撮影した動画や写真などを通して、阪神・淡路大震災の様子を知った。その際に、記録を残すことの必要性を強く実感した。特に、今回の討論の中でも度々出てきた「30年限界説」という言葉はとても印象的で、震災の記録が薄れたり、震災を知らない世代が増加していることは大きな問題だと感じた。そうした問題に向き合っていくべき世代だと思われる私たちにはどのような取り組みができるのかということについて、真剣に考える時期に差し掛かっている。

災害大国である日本に暮らす私たちは、常に災害の危険性と隣り合わせの状態で行っている。史料ネット研究交流集会が終わって自宅に戻った日の夜、南海トラフ地震臨時情報が出された。最終的には調査終了となったものの、被災史料保全活動についての今後を考えていたその日に、大規模災害発生の危険性がすぐ隣にあることを痛感した。

2025年は、阪神・淡路大震災から30年、終戦から80年の節目の年となる。残された記録や記憶をどうやって次世代へ繋いでいくか。そして、今後起こるであろう未曾有の災害に対する危機意識など多くの問題に直面することになるだろう。その中で、私たちが果たすべき役割は何なのか。今一度考え直さなければならない。



岡山県文化財等救済ネットワーク研修会



第10回 全国史料ネット研究交流集会 in 神戸のポスターセッション

真言宗アシタ会様からご寄附をいただきました

2024年10月2日に真言宗アシタ会様よりご寄附をいただきました。これは、9月に有志の青年僧の方々により西日本豪雨災害物故者7回忌の法要がいとなまれた際、参加者の方から寄せられたものとのことです。お届けくださった石原澄明様（寶生院・倉敷市真備町）、備中飯間弘人様（備中国分寺・総社市）に修復作業を進めている活動拠点をご案内し、お話をうかがいました。ご厚情に深謝申し上げます。

なお、2025年3月11日から（独法）文化財防災センターでも現在、クラウドファンディング「地域の宝をみんなで守る | 文化財防災・救援プロジェクト 2025」に取り組んでいます。センターは県文化財等救済ネットワーク研修会にオブザーバー参加されるなど、平時から防災のための体制づくりに取り組まれ、能登半島地震後には石川県能登町に現地本部をおいてさまざまな団体の活動の連絡調整もあたっておられます。このたびの寄附で被災文化財の救援にかかる初動対応にあてるとのことです。募集期間は6月9日までです。こちらもご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

文化財防災センターからのご案内は以下のウェブサイトに掲載されています。<https://ch-drm.nich.go.jp/facility/2025/03/2025.html>（事務局 松岡）

歴史資料保全活動への支援募金のお願い

被災状況の調査や、被災資料のレスキュー、クリーニング作業など、活動継続のための資金が必要です。募金にご協力いただける方は、下記口座にお振り込みいただければありがたく存じます。

ゆうちょ銀行総合口座（普通口座）

【記号】15470 【番号】38569531 岡山史料ネット（オカヤマシリョウネット）

（他の金融機関からの振込の場合）

【店名】五四八 【店番】548 【預金種目】普通預金 【口座番号】38569531

事務局 〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1 岡山大学文学部日本史研究室内

《電話》086-251-7406 《e-mail》okayamasiryonet@gmail.com

《web ページ》<http://okayamasiryonet.s1008.xrea.com/>

《X》@okayamasiryonet

